

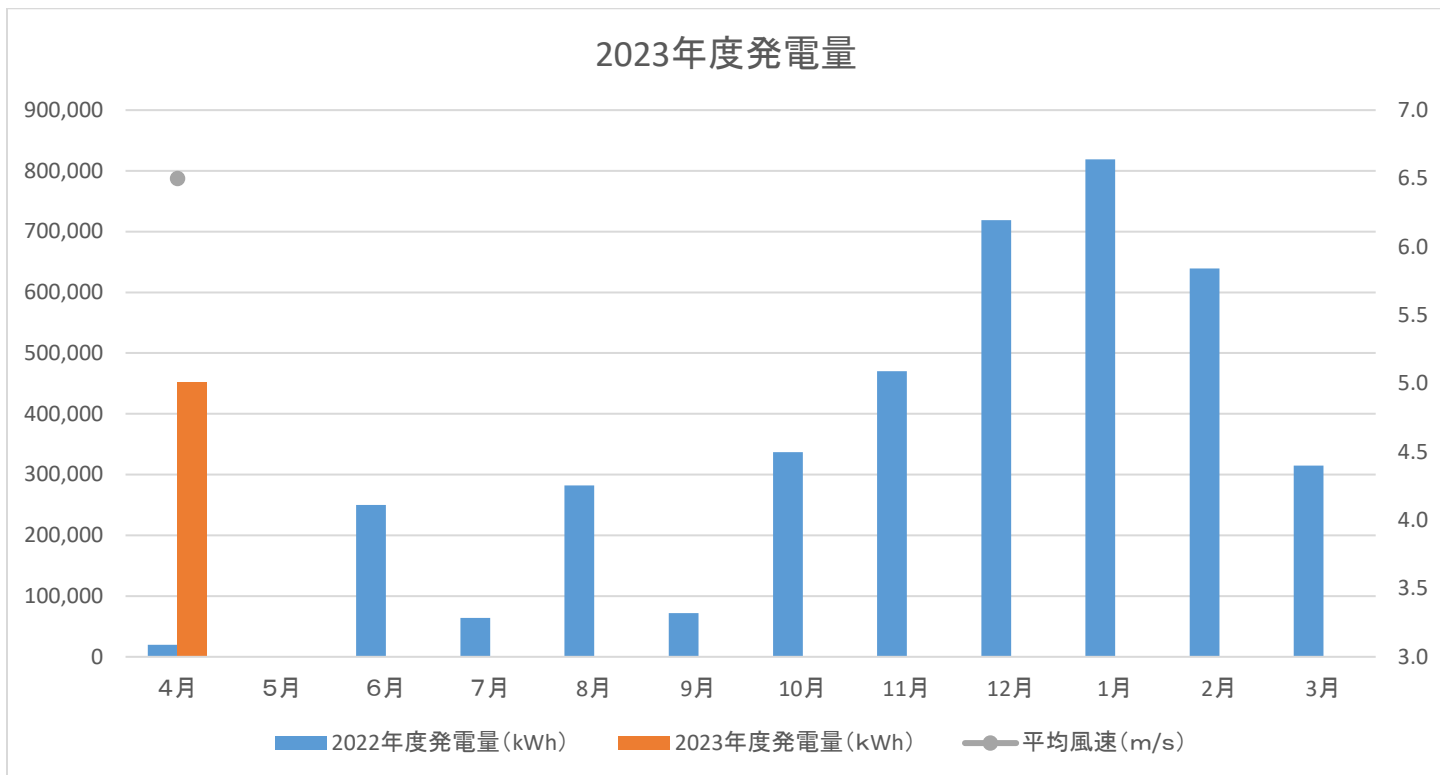
秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 3-4-14FORCAST 人形町 PLACE8 階

一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩（代表理事） 編集責任者 鈴木伸予

## ○ 2023 年度発電実績



## 4月度運転状況について

○風況は前年同月に比べ 0.9m/s 高くなりました。

○前年は 4/7 より保安停止をしていたため、今年度の発電量は前年比 2,248.4%となりました。

○11.0 年次点検を実施しました。

○4/9、22 は、8:00～16:00 まで国の優先給電ルールに基づく出力制御の指示を受け停止しました。

	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	稼働率 (%)
4月	451,057	6.5	31.5
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

## にかほ市と生活クラブとの連携推進協議会幹事会開催報告

5月2日、2022年度第3回幹事会をにかほ市で開催しました。

初めに、本田雅之副市長よりご挨拶をいただき、環境省の「地域脱炭素実現に向けた再エネの最大限導入のための計画づくり支援事業」に採択されたとの報告を受けました。

主な議案は、夢風の運転稼働状況、2022年度の活動のまとめと2023年度活動方針案、子供向け環境プログラムの実施計画、事務局リーダー研修実施計画、組合員リーダー研修実施計画、まちづくり基金の執行状況報告です。幹事会の議論を踏まえて、2023年度総会議案とします。

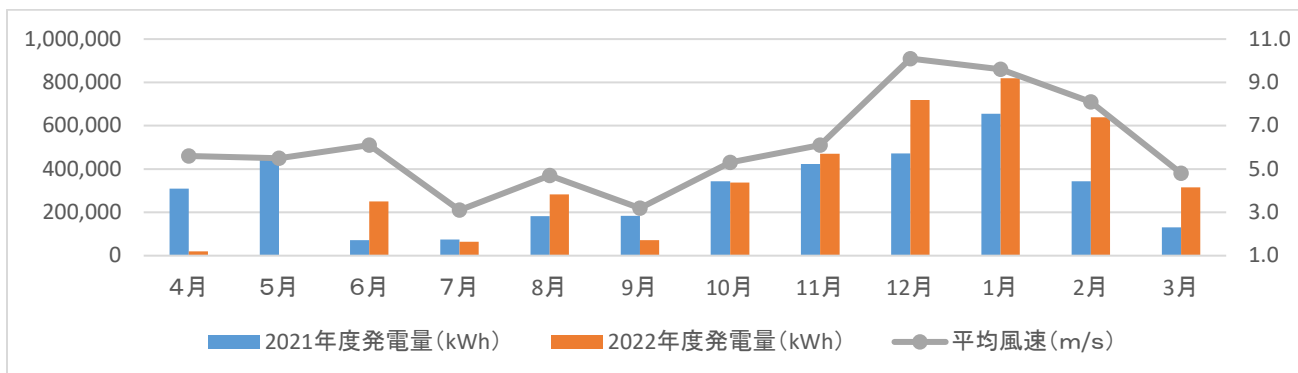
## グリーンファンド秋田理事会報告

5月11日、第4回グリーンファンド秋田理事会を生活クラブ北海道釧路センターの会議室で開催しました。

主な議案は、2022年度事業活動のまとめと2023年度事業活動方針、第16期役員候補の推薦、ドイツ・デンマーク視察研修の実施などです。

2022年度総発電量は、3,988,038kWhで、計画比95.0%、前年比109.8%でした。4/7より保安停止、5/11～6/20に増速機交換工事を実施したため、発電量は少なくなりました。交換工事以後は順調に稼働しました。2022年度報告と2023年度方針は、理事会の決定を受けて、第15期社員総会に提案します。

ドイツ・デンマーク視察研修の実施と、主旨に賛同し費用負担を実施することを確認しました。



## 阿寒マイクログリッド竣工式に参加しました



5/12、北海道釧路市阿寒町の阿寒マイクログリッド竣工式が行われました。竣工式には、阿寒マイクログリッドに出資している生活クラブ生協の代表、グリーンファンド秋田の理事会役員、経済産業省資源エネルギー庁、阿寒農業協同組合など50名ほどが参加しました。

2018年の胆振東部地震によるブラックアウトで、阿寒町では酪農家が搾乳できず、牛が病気になるなど大きな被害が発生しました。

このことから、阿寒マイクログリッドは、大規模停電の際には地域の配電網を他の系統から切り離し、再生可能エネルギーだけで地域の電力を賄う地産地消を行います。

大規模酪農施設の(株)天翔阿寒内に設置した、メタン発酵槽で、乳牛の糞尿を発酵させてメタンガスを発生させ、バイオガス発電を行います。バイオガス発電は酪農施設で自家消費されるほか、一部(49kW)は生活クラブエナジーをとおして「生活クラブでんき」として供給されます。メタン発酵槽からは良質な消化液を生産でき、牧草地に散布して循環させます。また、施設内には、蓄電池と太陽光も設置されています。非常時には、阿寒地域の指定避難所や酪農施設 14 件、民家 25 軒に電力が供給されます。

竣工式に参加した生活クラブ連合会の村上会長からは「阿寒地域との今後の交流を深めていきたい」との話がありました。



右から3人目 阿寒マイクログリッド小峯代表取締役



前列左から伊藤理事、篠崎理事長、増田理事長、山崎理事長、福住理事長、山崎常務、重盛監事、後列左から高階専務、石井理事長、須長専務、加藤常勤理事、村上会長、半澤専務、大石常勤理事、平田常勤理事

## グリーンファンド秋田理事会研修報告



5/11～13、阿寒マイクログリッド竣工式に合わせて、グリーンファンド秋田の理事会研修を北海道で実施しました。

5/11 は生活クラブ北海道釧路センターにて理事会、5/12 は阿寒マイクログリッド竣工式に参加しました。

5/13 の午前中に、石狩市の風車を、(株)市民風力発電の鈴木亨代表取締役にご案内頂きました。石狩市厚田区に建つ生活クラブ厚田プロジェクトの風車「厚福丸(こうふくまる)」は、2014年12月に運転を開始しました。出力は夢風と同じです。小高い丘の上に立ち、海からの風を受けて発電し、発電した電気は、「生活クラブでんき」として供給されています。

午後からは、生活クラブ北海道の新しい本部を訪問し、高階専務理事にご案内頂きました。ブラックアウトを経験したことから、屋上に50kWの太陽光発電、非常用ガス発電機、非常用コンセントを設置しています。平常時は、太陽光発電の電力はセンター施設内で消費されます。停電時は、非常用コンセントから電気を使用できます。また、停電を検知すると非常用ガス発電機が作動し、電

算室の電力を賄います。生活クラブ北海道は、月1回申し込みのシステムで自前の電算システムを使用している為、電算室が止まる事の無いよう対応しているとのこと。

新しい建物は、2階が本部事務所と電算室、会議室、料理室、託児室で、1階が配送センターです。1階のセンターには、外に出しておく卵も凍るそう、常温品用の冷蔵庫がありました。

写真:左から、市民風力発電・滝本取締役・鈴木亨代表取締役、神奈川・加藤常勤理事・半澤専務、北海道・高階専務、東京・大石常勤理事、埼玉・須長専務、千葉・山崎常務、GFA・鈴木



新しい生活クラブ北海道本部

## 出力抑制指示ってなに？

電力系統においては、電気を使う量と発電する量(需要と供給)のバランスをとることが重要になります。このバランスが崩れてしまうと周波数に乱れが生じて、最悪の場合は大規模停電が発生します。このため需要と供給の量が常にバランスするように調整することが必要となります。そこで、法令等であらかじめ決められた「優先給電ルール」に基づいて、需給バランスの維持を行います。

優先給電ルールでは、電気の発電量がエリアの需要を上回る場合には、まず火力発電の出力の抑制、揚水発電のくみ上げ運転による需要創出、地域間連系線を活用した他エリアへの送電を行います。それでもなお発電量が需要を上回る場合には、バイオマス発電の出力の制御の後に、太陽光発電、風力発電の出力制御を行います。

水力・原子力・地熱は「長期固定電源」と呼ばれ、出力を短時間で小刻みに調整することが技術的に難しく、一度出力を低下させるとすぐに元に戻すことができないため、最後に抑制することとされています。

出力抑制は、2018年に九州電力が初めて実施。2022年は北海道や東北、中国、四国、沖縄の電力各社が行い、今年も中部電と北陸電力も続いています。東電、関電での実施はまだありません。

夢風は東北電力ネットワークからの指示で2022年は3回出力抑制を行いました。この割合は、出力抑制が一番多い九州電力エリアでも発電量1.4%と、まだ、経営に大きな影響を与えるものにはなっていません。

しかし、再生可能エネルギー最優先という中で、原発の電気が利用され、再エネ電気を捨てるというのはもったいない事です。再エネを増やすために、このような国のルールを再エネ「優先接続・優先供給」に変えていく必要があります。

### 【電力需給のイメージ】 出典:資源エネルギー庁

